Kalafina Harmony Magazine
2018 Early Spring #03
Kalafina Harmony Official Fan Club

Contents

Staff

Photo ⇒ キセキミチコ（KISEKI inck），山内洋枝，上條 遼，大川晋児
Text ⇒ 大西智之
Art Direction ⇒ 鶴羽高章
Edit & Text ⇒ 芳崎志保

Wakana

Keiko

Hikaru

Kalafina | Long Interview

「Kalafina 10th Anniversary LIVE 2018」に向けて邁進し続けてきたKalafina。
その大きな節目を終えた今、彼女達は何を想っているのか。武道館という大切なステージで3人に見えた景色、
そこで得たもの――Harmony Magazineならではの素の言葉をお届けします。

◆1月23日の10周年ライヴから今日でちょうど2週間経ちましたが(取材日は2月6日でした)、あの日の武道館を振り返ってみて、今、どんな想いを抱かれていますか?

Wakana　10年という年月の集大成になるだろう、とは思っていたんですけど、"集大成"とかそういう言葉で一括りにできるようなものではなかったな、というのが正直な気持ちです。ただ、個人的には今まででいちばん楽しいライヴでした!

◆Wakanaさん、ライヴ前のインタビューで「楽しみたい」って言ってましたしね。

Wakana　はい。音楽って本当にすごいな、と今までもたくさん思わせてもらってきたけど、ハーモニーを奏でる快感を知ったのはKalafinaになってからで。合唱などの大人数で歌うことはあっても、3人、3声というのは初めての経験で……パンフレットで赤木りえさんが寄せてくださったコメントに、3声というのはとても難しいって書いてありましたけど……本当にその通りで。Kalafinaで3声コーラスワークを学んできて、あの日の武道館のステージで歌っている時が、10年間という時間の中で一番ハーモニーを奏でる楽しさを感じられた時間だったと思います。

Keiko　全部で26曲歌ったんですけど、Kalafinaとしては1ステージで最多の曲数だったし、武道館公演だし、前日も通しゲネをみっちりやって。体力的にはとてもハードだったはずなのに、ライヴ翌日は姪っ子とサンリオピューロランドに遊びに行ったんです(笑)。

◆ええっ!?(笑)　休まなかったんですか?

Keiko　ビックリでしょう?(笑)　いつものライヴ終わりとは違う感じで、自分でも不思議だったの。普段なら大舞台を終えて、ちょっとほっと一息して休んだり、体のメンテナンスをしたりとかだったんだけど、今回は自分でも新感覚で!　武道館公演で自分がありったけのエンターテイメントを表現したあとに、私自身が他のエンターテイメントで楽しんでたという。

◆予想外の答えが……。

Keiko　会報じゃないとなかなか話せないエピソードでしょ(笑)。

◆確かに貴重です(笑)。Hikaruちゃんはライヴが終わった後はどんな感じで過ごしてたんですか?

Hikaru　1日ごとに「本番が迫ってくる……!」ってドキドキしていたんですけど、その日を迎えたら、あっという間に終わっちゃったなぁって感じで。私もKeikoさんと同じなんですけど、親友がライヴを観に来てくれたので翌日一緒にご飯を食べに出かけました。「あのライヴの翌日に動けるんだね!」って友達も言ってました(笑)。普段、体を動かさないから、ライヴの後ってだいたいグッタリしてるんですけど、今回のライヴっていつもと違ったんだなって。なんて言うのか、もちろん武道館公演、10周年ライヴというのは特別なことだったんですけど、私にとって"ライヴ"は生活の流れの中にあったというか、日常のようにライヴをやれたのかなぁって思います。

◆前日にも通しゲネで武道館にいらっしゃったんですよね。

Wakana　あの日、雪がすごい降りましたよね!

Keiko　ずっとゲネや確認作業で室内にいたので、雪が降り積もっていることを全然知らなくて。みんなで解散する時になって「この雪!　大変!」ってなりました。「みんな、明日も無事に会おうねー」って言いながら家路についたという(笑)。

◆そして当日は見事に晴れて、雪も溶けて。皆さんも晴れやかな気持ちで会場入りできたのではないですか?

Wakana　今回の周年ライヴは1日公演だったんですけれど、私にとっては前日のゲネが武道館初日のような感覚だったんですね。前回、前々回の武道館が2デイズだったということもあって、「あ、この感じ知ってる!」と思いながら会場入りしました。前日にいろんな調整を済ませていたので、少しだけ心にゆとりがありましたね。本番の登壇直前も3人で待機場所の階段でお話してたりして。不思議な感覚でしたね。今回は3人一緒に登場するパターンのオープニングだったでしょ?　そのほうがいいなって思った(笑)。前回はKeikoが先にひとりで舞台に出ていく様子を見守りながら待っていたんですけど、もう緊張感がものすごくて!　今回は、3人一緒に登場できたのですごく安心感がありました。

Keiko　私は朝起きた時、なんだか緊張してたと思う……目が覚めた時にいつもそんなことしないのに、「あ!　声、ちゃんと出るかな。Ahー　Ahー」って発声確認して。自分のコンディションを確認したのなんて、風邪の時以外では10年間で初めて。なにやってるんだろ私?って思った(笑)。自分が思っている以上に、今日この日に賭けてるんだなってびっくりしましたね(笑)。そこから会場に入って、いろいろやるべきことをやっていって本番前には心は整っていたんだけど、起きた瞬間はちょっと変だったなぁ。

◆目覚めた瞬間から気合いが入ってたんですね。Hikaruちゃんはいかがでしたか?

Hikaru　今回はいつものグッズ紹介タイムがない、というちょっとした変化がありまして(笑)。武道館はパンフレット紹介をする場合が多いので、ギリギリまで確認しつつ中身をずっと見るっていうクセが付いていたから、当日もパンフを見てました!

Wakana&Keiko　見てた～!(笑)

Hikaru　めっちゃ2人の写真見てた(笑)。ルーティーンは大事じゃないですか。Hikaruにとっての武道館のルーティーンは「パンフレットを開くこと」だから。

Kalafinaで3声コーラスワークを学んできて、あの日の武道館のステージで歌っている時が、10年間という時間の中で一番ハーモニーを奏でる楽しさを感じられた時間だったと思います
-Wakana-

Keiko　パンフの紹介、してほしいよー!(笑)

Hikaru　できるよ～(笑)。今回はグッズ紹介のない構成だったから、歌に1曲1曲全力投球で、その日までに自分の中で構築してきた登場人物とか風景とか色とか、そういうのを全部出し切ろうと思っていました。前日はいろいろ考えてたら、めっちゃ寝れなかった! さすがに、歌うのはノドのことを考えてやめておきましたけど(苦笑)。で、本番で自分が思い描いたように歌えた時に、お客さんの顔を見て、目が合って微笑んでくれたり、Hikaruが歌声で何かを表現した時にハッとした表情になってくれたりとか、そういうちょっとしたリアクションがすごく嬉しくて。ライヴの醍醐味だなって。武道館ってあんなに大きい会場なんですけど、すごくお客さんと近いんですよ。わかるんです、お客さんの表情とか雰囲気とか。そういうのを見ながら、最初のご挨拶のMC部分では、あれを絶対やろう!と思っていて(笑)。

◆方角ごとに声出ししていったご挨拶?

Keiko　あれ、楽しかったよね!

Hikaru　その時に、方角ごとにお客さんの顔を見て、今日はこのメンバーで、この景色で音楽を奏でる!という決意というか、改めてその想いを新たにできたというか。

Keiko　途中からみんなのかけ声がだんだん「ウォー!!」ってなっていったじゃない? 今日、運動会かな?って(笑)。

Wakana　Kalafina大運動会!(笑)

Keiko　最後のほうは、みんなすごい盛り上がっちゃってて。まだ2曲終わったところの序盤なのに(笑)。

Hikaru　しかもその後、「lirica」からの怒濤の9曲ブロックっていうね。

◆9曲も続けて歌ったのは、初めてでしたよね。

Keiko　はい。でもね、これでも減らしたの。実は最初の構想ではもう1曲あったんですけど、曲の繋がりや前後のテンポ感を考えて。これしかない!っていう9曲になりました。

Wakana　ベストだったと思う! 私、今回のセットリストの中で、ここのブロックがいちばん好きだった。9曲、いいじゃん!って。普通に考えると9曲を続けて歌うというのは大変なことだと思うんだけど、世界観も考えられていて、"これしかない"というものをお届けできている感覚がありました。

Keiko　ミュージシャンの方々も「ここ! ここさえしっかり乗り切れば!」っておっしゃってましたね。転調とかもあるので、あの9曲を流れを切らさずに続けるのは難しいんです。さらっと演奏してくださっているんですけど、「この9曲をいかに集中力を切らさずにいけるか、ここを最高のパフォーマンスで演奏できれば全体が良いライヴになる」って皆さんおっしゃっていて。

Wakana　リハの時に「転調手当出る～?」っておっしゃってたよね(笑)。

◆Kalafina曲、めちゃもらえるじゃないですか(笑)。

Hikaru　転調多いですからね(笑)。

Keiko　いつもサラッとKalafinaの曲を演奏してくださっているんですけど、本当にすごいことで。だからこそ「音楽」の間奏は、ソロ・アレンジをリレーで繋いでいく構成にしたかったんです。ミュージシャンの方々への感謝の気持ちをライヴを通してお伝えしたくて。それに、それぞれのプレイヤーの方々の演奏をお客さまが楽しみに待ってくれているというのもわかっていたから。「このタイムは、それぞれがお好きにお使いください」っていうソロタイムにしたんです。そこはお礼の気持ちでした。本当にありがとうございます!っていう気持ち。すごいかっこよかったですよね……! そこだけ繰り返した音源がほしいくらい。聴きながらランニングしたいもん(笑)。

◆本当に豪華な競演でした。

Keiko　ミュージシャンさん達のプレイでいうと、「君の銀の庭」と「nightmare ballet」の掛け合いのインストパートも素晴らしかった! 実は、打ち合わせの時に梶浦さんが「Kalafinaのライヴで音遊びみたいなことはしたことないよね。FictionJunctionのライヴではよくやるんだけど、やってみようか!」ってご提案してくださって。同じ3拍子でコードのつながりもすごく気持ち良くて。技術はもちろんなんですけど、そこに愛情が込められた音楽を感じることができたというか。

◆セットリストの全体の流れは早くから見えていたんですか?

Keiko　実は、大きく変化した部分もあるんです。3月30日から上映される映画の中でもセットリストの打ち合わせ模様が撮影されているんですが、当初オープニングは劇場版『空の境界』シリーズからスタートする予定でいました。が……昨年末に、改めて10年間を振り返っていて、ふと思い出したんです。初めての武道館公演で梶浦さんが「武道館に旗を立てる! そんなイメージが一番しっくりくるよね」と仰ってくださった言葉を。2015年の武道館公演でステージに旗を立てて、そこから3年間、"音楽の旅"という言葉を掲げてツアーごとに各地を旅して廻っていくうちに、"Kalafinaの旗を立てて進んでいきたい"という意識がどんどん強くなっていったんですね。なので、10周年ライヴでは、白い旗にX(10)を刻んだテーマモチーフを考えて。それをお客さまと一緒に武道館で掲げたかったので、1曲目は絶対に「ring your bell」でいきたい!と考えなおしました。

◆インスト含め全部で27曲。さまざまなテイストの曲が網羅された内容でしたね。

Keiko　しかもそれが、私達が考えたんじゃなくて、皆さんが「聴きたい」と思って投票してくださった曲を並べただけ、というのがすごいことだな、って。投票結果の24位までの曲をすべて入れて構成したんですけど、見事に系統がバラバラの楽曲を選んでくださっていて。そのおかげでこんな幅広い曲調のセットリストが組めました。

こちらから発信するだけじゃなくて、ステージに上がる前段階からお客さまと一緒にライヴを創っていくというのはこういうことなんだなって
-Keiko-

Hikaru　全部ダーク曲とか、全部アッパー曲とかにならなくてよかった(笑)。
Keiko　偏ってないことに驚いたよね。だから、投票結果を知った時に、これは数曲ピックアップとかじゃなくて上位曲でセットリストを構成しよう、と思ったんです。よくKalafinaのファンは客層がさまざまだね、とおっしゃっていただくんですけど、その通りの結果が出たなって思いました。こちらから発信するだけじゃなくて、ステージに上がる前段階からお客さまと一緒にライヴを創っていくというのはこういうことなんだなって。
◆共に創る、という意味では「oblivious」での『空の境界』とのコラボレーションも大サプライズでした。
Keiko　あの映像は、ちゃんと残せるものを、というお願いをきいていただいて。『空の境界』のスクリーン10周年とKalafinaの10周年はイコールで、お互いになくてはならない存在で。そして私達をいろんな世界に連れていってくれたのは『空の境界』だから、その感謝の気持ちをライヴで表現し上げてくるものがありました。
Keiko　オリジナルバージョンでは久しぶりに歌ったんだよね。Wakanaの造語を聴いてから歌に入るっていうパターン。
Wakana　最初の造語、久々だった～!
Keiko　私達も聴き手も欲深いから、いろんなライヴアレンジもやりたいし、オリジナルもやりたいしっていう(笑)。でも、そうやっていろんなバージョンをお客さまと一緒に楽しめるっていうのは、理想的な形。10年間で、「こっちもいいよね」「でもこっちもいいよね」って思えるのって、聴いてきてくださった方達の楽曲への愛情、Kalafinaへの温かさを感じますよね。
◆では最後に改めて。"Kalafinaの10年"を振り返ってどんなことを感じていますか?
Wakana　デビューから10年という時間を3人で歌と共に歩めるとは思ってなかったんです。3人とも、最初はどうやって活動していくのかよくわからなかったんですよね、流動的なプロジェクトだったから。そこから2年目になって、3人でライヴをやらせてもることをより考えていきたいなと思いました。人生の中で、Kalafinaの3人の声、梶浦さんの作られる音楽っていうのは唯一無二で。いつもすごい曲を歌わせてもらってるなと思ってるから。それをライヴでもっと伝えていきたいです。
Keiko　どんな職業でも10年間続けるとか、同じ会社で仕事をしていても10年同じチームでなにかをやり遂げるというのはなかなかないこと、という世間の声を聞くと、10年間、同じメンバー、同じチームで歌を歌えたというのは自分の財産なんだなって思います。その中で自分の世界を掘り下げて歩んでこれたのはとてもありがたいことでした。10年経ったからこそ、いろんな人からのいろんな言葉を聞けたんじゃないかな、って思うんです。10年続けてきた評価というのは大きいんだなというのを最近すごく感じています。いろんな人との出会い、いろんな楽曲との出会い、非日常なことを経験させていただいたんだな、ということを10周年という節目を経験した今だからこそ、改め

私にとって"ライヴ"は生活の流れの中にあったというか、日常のようにライヴをやれたのかなぁって思います
-Hikaru-

たかったんです。歌の邪魔にもならず、映像の邪魔にもならないベストなバランスでコラボレーションした映像をufotableさんに作っていただきました。
Hikaru　アンケートでも喜びの声を多くいただきました!
Wakana　本当に隙のないセットリストだったよね。
Keiko　うん、奇跡的だった!
Wakana　ホントに皆さんすごいと思う。投票結果の3位2位1位とか、並びが最高すぎて。
Hikaru　oblivious、sprinter、アレルヤ!
Wakana　まさかこの並びでくるとは!と思いましたね。みんなのイメージするKalafina像があった上での、2年目からのライヴスタートだったから、当初は「自分のイメージと違うからあんまり生では見たくないかも」というファンの方々もいらっしゃったと思うんですよ。でもそれを経ての10周年で、この3曲が上位に入ってくれた。本当にありがたいことでした。
◆ラスト曲、「アレルヤ」は聴いていて込みらえるようになって、「一緒に歌えるんだ!」という同じ喜びを初めて分かち合った。その日から、10周年の1月23日までを、一瞬で駆け抜けてきたような気持ちもあるけど、しっかりと踏みしめてきた、という気持ちもあって。裸足で大地を踏みしめて土を感じる、そういう日もあれば、ものすごく高いヒールを履いて階段を駆け上っているような年もあったり。あっという間の10年のような気もするし、いやいやすごく長かったよ、という気もするし。10年って時間としてはすごく長い。当時10歳、小学校4年生の子が20歳になってるくらいの年月が経ってるってことで。その経験ってとても良かったなって。最初にもお話しましたけど、歌を歌うなかでのコーラスワークがすごくおもしろくなったんですよね。自分の声で、どういうふうにこの旋律を歌うか、この人の声に対して私の声だったらどういうふうに重ねていこうか、っていうことを考える。この10年で歌い方が全然変わりました。この前、18歳の時に作ったデモテープを聴いたら全然違う人だった(笑)。歌の幅が広がった今、自分ができて感じることができました。どんな流れの中でどんなふうにKalafina10周年のステージに立つのか、を見据えて1年半前から活動してきて。10周年という記念すべき日に武道館のステージに立ったKalafinaの姿、後悔のないものにできました!
Hikaru　刺激しかなかった10年でした。この仕事をしてなかったら、経験しないようなことばかりで(笑)。歌のお仕事をしたい、と思ってこの世界に入ったけど、歌うだけじゃなくて、他にもやらねばならないことがたくさんあって、それを全部やらないとやりたいことがやれないんだ、とか。どのお仕事でもそうだと思うんですけど。そんな中で、自分がやりたいことやり甲斐を見つけていって、もちろんたくさん壁にもぶつかって……そのすべてを全力でやらなきゃだめなんだな、全力でやるからこそ見えることもあるんだな、っていうのをこの10年間で学びました。以上!
Keiko　ひーちゃん、力強いよ……。
Wakana　最後、なんだか男前になって終わったね(笑)。

Kalafina 10th Anniversary

Live Report

Kalafina 10th Anniversary LIVE 2018 2018.01.23 日本武道館

ステージには大きな白いフラッグ。そこには堂々とX=10の印が刻まれていた——ファンと共に創った記念すべきライヴを！

Text ⇒ 芳崎志保　Photo ⇒ キセキミチコ（KISEKI inck），山内洋枝

LIVE 2018 特集

Kalafinaにとっても、応援してくださるファンの方にとっても、大切な1日となった1月23日。ライヴレポートはもちろん、リハーサル、3人の想いが形となったパンフレット撮影現場の様子をお届けします。

会場は、両端ともにステージ後方に若干食い込むあたりまで、スピーカーなどの死角になっている座席以外、すべてがファンで埋まっていた。ステージセットはいたってシンプルで、ステージ後方に大きな2組の白いフラッグが交差した状態で飾られている。オープニングSEと共に、そのフラッグが徐々に広がっていくと、そこには刻みこんだような「X」という文字が描かれていた。

幻想的なライトが降り注ぐなか、Wakana、Keiko、Hikaruがセンターに登場し、「ring your bell」を荘厳に響かせ始める。ひとりひとりの声の輪郭が浮かび上がり、溶け合い、かと思えばふわりと離れたり、支え合ったり……歌が進むにつれてどんどん3人の表情が柔らかくなっていく。最後、Wakanaのハイトーンが美しく伸びると、ストリングスがその声を優しく包む込むように奏でられ、フィニッシュ。と同時に割れんばかりの拍手が湧き起こった。3人が空から降り注いでくる拍手を確かめながら客席をぐるりと見渡して、光がこぼれるような笑顔を見せる。Keikoが万感の想いを届けようと両手を大きく広げ、瞳を輝かせながらゆっくりと頷く。1曲目からすでにクライマックスかのような高揚感だ。続く「未来」では、観客の手拍子に乗せて明るく力強い歌声を聴かせてくれた。優しい桜色のライトの中、息の合った3声のハーモニーで締めると、最初のMCへ。

「今夜は私たちの10年間の音楽をたっぷりと楽しんでいってください!」(Wakana)

「やって参りました日本武道館！　今日は皆さんと最高の夜を作りたいと思います!」(Keiko)

「平日にもかかわらず、お足もとの悪い中(一同笑)、皆さんにお会いできて本当に幸せです!　じゃあ皆さんのお顔を拝見していこうかしら。やるわよ!」(Hikaru)

客席をライトアップして、各方角のオーディエンスを元気に煽っていくHikaruに、みんなも笑顔と大きな歓声で応える。

「1月23日、私たちKalafinaは10周年を迎えることができました。ありがとうございます」

というKeikoの言葉に、客席から「おめでとう!」と大きな声援と拍手が贈られる。

「皆さんからリクエストいただいた大切な1曲1曲を心を込めてお届けできる1日にしたいなと思っております。まずは少し懐かしい曲から。"lirica"」というKeikoの言葉を合図に照明がふっと落ち、浮遊感のあるサウンドの中、KeikoとWakanaの2声のハーモニーが美しく、もの悲しく響き始める。ここからのブロックでは9曲を続けて歌いきるという圧巻のステージングで魅せた。フルートの音色が軽やかに躍動した「光の旋律」、3人が刻むリズムと音の粒がぴったりと揃ってまるでひとつの生き物のようだった「storia」、イントロの民族太鼓とフルートがノスタルジックな夏の恋物語への扉を開けた「夏の林檎」、アコーディオンとパーカッションが紡ぎ出す異世界感漂うサウンドに誘われた「serenato」。HikaruとKeikoの寄り添い合う2声の響きと、高音域を自在に泳ぐWakanaの歌声が、ラストに向かって天へと駆け上がっていくような展開に心が震えた「ARIA」。そしてブロックのラストを飾ったのは「sprinter」だ。ギターの疾走感溢れるイントロが鳴った瞬間に拍手と歓声が上がる。拍手はそのまま大きな手拍子になり、場内の熱がグングンと高まっていく。それに応え、圧巻の歌唱を轟かせる3人。Keikoが上手に、Wakanaが下手に、Hikaruがセンターに進み出て、〈君に会いたい〉と、観客ひとりひとりに歌声を伝えていく。

デビュー曲「oblivious」は、グループ誕生のきっかけである作品『空の境界』の特別編集映像とのコラボレーションで届けられた。楽曲に合わせて、3人の歌唱する姿とアニメ映像がクロスオーバーするKalafinaならではの演出に、お互いの存在への敬愛を強く感じる。曲終わりのタイミングでスクリーンにドン!とタイトルロゴが映し出されると、場内は大いに湧いていた。

客席からステージを観るWakana

進行や演出を確認中

バンドメンバーも一緒に

入魂のブース設営完了

前日は大雪でした!

Keikoがピアノの櫻田を見つめながら歌い出した「君が光に変えて行く」では、詩情豊かなアルトの響きが心地良く体を満たしていくのを感じる。中盤を締めたのは「symphonia」。Keikoの大地を思わせる力強く温かい歌声を軸に、シルキーなWakanaの高音、透明感と凛々しさを放つHikaruの中音が織り重なり、その周囲をすべての楽器の音色が美しく彩っていく。最後のフレーズが終わるか終わらないかのタイミングで、待ちきれないとばかりに拍手の波が会場中に広がったのが印象的だった。

終盤ブロックは、Kalafina楽曲の特徴のひとつ、ダークファンタジーの世界にどっぷりと浸れる「red moon」からスタート。ブレのないピッチと爆発するエモーションが絶妙なバランスを見せるHikaru、一言一言に魂を込め立体感のある低音を響かせるKeiko、天からの音楽のような神々しい高音を奏でるWakana……というそれぞれの個性が迸る。3人の歌声が重層的に「red moon」というタペストリーを織り紡いでいるようだった。そのままの勢いで「adore」「to the beginning」「progressive」「音楽」「heavenly blue」と怒濤のライヴキラーチューンを連打。一気に「heavenly blue」まで歌いきったあと、Keikoが笑顔で問いかけた。

「みんな～! 元気ー?」

もちろん客席は大歓声でイエスと応える。

「いろんな曲を歌ってこれたからこそ、いろんな場所に音楽の旅をすることができました。次にお届けする曲はそんな歩みを感じる1曲です。今日来てくれた皆さんおひとりおひとりの歩みを重ねて聴いてみてください」というメッセージから「into the world」へ。雄大な河が流れるようなゆったりとしたリズムに乗せて、3人の歌声が武道館に広がっていく。

〈この先は海へ向かうしかないようで　地図のある旅は終わるんだと噛み締めた〉

10年間の音楽の旅を愛おしく振り返るように、そして未来を見つめる眼差しを湛えながら3人が歌い始める。彼女達の後ろでは、ステージに掲げられたフラッグが風を受け、力強くはためいていた。

*

「10th Anniversary LIVE、最後の曲を。たくさんの皆さんが選んでくれた曲です」

「アレルヤ」のストリングスが静かに流れ始める。笑顔のKeikoが、芯の強さと穏やかな明るさを湛えた歌声で、ひとりひとりに手渡しをするような丁寧さをもって気持ちを届けてくれるのがわかる。

〈僕らは行く〉

〈小さな命を振り絞って〉

〈君の未来へ〉

ステージのフラッグが3人の声を受け、大きく広がっている。10周年目のステージに、しっかりとKalafinaの旗が立っていた。

万雷の拍手の中、すべての歌を歌い終わり、満足そうな笑顔を見せるKalafina。なるべくファンの近くまで行きたい、とウイングの端まで歩いて行って、想いを告げる。

「10年間、Kalafinaのそばにいてくれたのは皆さんです!」と、涙がこぼれそうになるのをこらえながらも笑顔のWakana。

「10th Anniversaryが日本武道館でできるなんて皆さんのおかげなんです!　今日の皆さんのお顔は、絶対に忘れない!　全員見たと思う!」と晴れやかな表情でHikaru。にっこり笑うと「ありがとうございましたー!!」とマイクがいらないくらいの大きな声で叫んだ。

最後、センターに3人で集まって、深く深く頭を下げたあと、

「10周年、武道館でコンサートするのが本当に夢でした!　ありがとうございましたー!!」と、ありったけの想いを叫んだKeiko。

「お客様のことだけを考える1年にしたい」という宣言の下、9周年を走り抜き、今日のためにすべてを注ぎ込んできた。10年前のこの日に生まれ、今日まで積み重ねてきた様々な"音楽の旅"で得た経験や成長が結実した、万感の想いあふれるステージだった。

Part 2 Rehearsal Report

1月某日、都内のリハーサルスタジオ。広いスタジオに、Kalafinaのメンバーと共に武道館のステージに立つミュージシャンが12名、そして舞台監督やPAさん、照明さんなどの全スタッフが集合していた。前もって、プロデューサー梶浦氏、Kalafinaのメンバー、バンドメンバー数名が集まって全体のアレンジの方向性などを話し合い、今日はそれを受けて全ミュージシャンが参加する、初のアレンジ合わせの日だという。私がスタジオにお邪魔した時はちょうど休憩中で、Hikaruが「ちょうどいいタイミングだったかも。これから全員で"音楽"を合わせていくところです」と教えてくれた。

「では、やりましょうか!」という舞台監督のひと声で、リラックスしていた空気がピッと引き締まる。「よろしくお願いします!」とKalafinaの3人も元気にご挨拶。

「音楽」では、各ミュージシャンの見せ場を作りたいということで、間奏でソロを持ち回る構成を考えている最中らしく、「何小節ずつでいく?」と意見を出し合っている。二言三言、短い言葉を交わした後、Keikoが「じゃ、8小節で!」と結論を出すと、全員が「オッケー!」と準備をし始める。

「じゃあいきましょう!」という舞台監督の言葉を合図に「音楽」がスタート。リハでの演奏のため、あまり外音は聴こえてこないが(メンバーは全員イヤモニで音を確認している)、それでも盛り上がっている武道館の様子が目に浮かぶような白熱の演奏だった。

1曲通したあと、それぞれが気付いたことをざっくばらんに話し合う。

「このパートはちょっと変えたほうがよいかも」「ここの切り替えをもっと自然にしよう」「そうするとここの小節数ってどうなるんだっけ?」「よし、それじゃやってみるか」など、テンポよく飛び交う言葉に、音を合わせる楽しさとベストなアレンジを探る緊張感がほどよくミックスされた空気が滲む。

続いて合わせたのは「serenato」。イントロのシーケンスからのアコーディオン→パーカッション→歌入りのタイミングを詰めていく。

全員の真剣な眼差しと、チーム全体のリラックスした一体感が印象的だったリハーサルの模様をお届け♪

Text→芳崎志保　Photo⇒上條 渡

何度かいろんなパターンを試しながら、ベターからベストを探っていく過程が興味深い。「かなこさん→オバヲさん2小節→べい～ん、♪アマリ～タ、がいいと思う」というメンバーの提案に合わせて、クリックのスタートタイミングなどの細かい部分を詰めていく。

15分間の小休憩を挟み、次は「カンタンカタン」へ。一度合わせてみて、Keikoが「2番の入りの音数を減らしたいな」と提案。是永さん（G.）が「こんな感じ?」と試奏し、それを見ていた強一さん（Dr.）が「この部分、ほとんど音がなくなるけど歌、入りづらくない?　大丈夫?」と気になる部分をすかさずフォローする。その後も、集中力を途切れさせることなく、「adore」「ひかりふる」「oblivious」「傷跡」「君が光に変えて行く」など、夜遅くまでリハーサルは続けられた。

後日、3人にリハーサルの感想を聞くことができた。

Wakana「個人練習をしている時はまだ不安なんだけど、バンドと合わせることでライヴの全体像が見えてきて安心します。あと、本番はバンドメンバーの皆さんの演奏に集中したくてもできないので、リハで堪能しよう!と思って気合いを入れて聴いていました（笑）」

Keiko「今回は特に、自分でもいつもより一層アレンジに対する感度が高かったなって思います。ライヴアレンジにする作業は、冒険する気持ちと慎重になる気持ちと両方あるんですよね。一番音が気持ちいいもの、心地よいものと、曲が持つブレない大事なもの。その両方が大切で。ありがたいことに素晴らしいミュージシャンの先輩方と一緒に奏でられるので、皆さんにたくさん助けていただいて作り上げていきました」

Hikaru「今回の大編成だからこそ活きる歌唱法があって。それはリハーサルで生で合わせて初めてわかることでした。歌のパワーの出力加減をいろいろ自分で確認する場でもあります。あと、映画用のカメラがあったから、一体どんな顔を撮られているのか!?と気になっていました（笑）」

Part 3 Making Photo of Pamphlet Shooting

Kalafinaからのアイデアを、"写真"という作品に注ぎこんだパンフレット撮影の裏側をたくさんのメイキングカット＆撮影テーマの解説と共にお届けします！

床には水をイメージした布をたっぷりと

もの言いたげな瞳にドキッとします

写真をパソコン画面で確認中。真剣♪

[illegible]アレンジもお似合い

ソロカットを撮り終わったら集合カット

パンフのラストページを飾ったシーン

メイキングカメラに向かってニッコリ♡

過密なスケジュール、お疲れさまでした！

Director's Comment

『Kalafina 10th Anniversary LIVE 2018』のパンフレットはライウコンセプトに添い、"デビューからの10年の軌跡"をテーマに制作しました。"これまで"を形にするにあたり、メンバーから、過去のアルバムジャケットを意識した画作りをしたい、という具体的なアイデアが挙がり、撮影小物などでその意図を汲んでいます。これにプラスして、大地、空、森、光、水――梶浦由記さんが創り、Kalafinaが歌い継いできた世界観の核にあったものを写真で表現しました。この中でも特にアルバム『far on the water』や「into the world」を始め、多くの楽曲で描かれてきた"水"に関しては"ポイントにしたい"という話がプレゼンの時に3人からありました。そこで撮影現場でも相談しながら彼女たちが想い描くものから外れないよう、丁寧にビジュアルへ落とし込んでいます。

Pamphlet Art Director Tomoyuki Onishi

Kalafina Acoustic Tour 2017 ～"+ONE" with Strings～
2017.12.02 宮城 電力ホール Live Report

11月からスタートしたアコースティックツアーのほぼ折り返し地点となった宮城公演。温かい空気に満ちた一夜でした。

Text → 芳崎志保　Photo ⇒ キセキミチコ (KISEKI inck)　※写真は12月3日・東京オペラシティ コンサートホール公演時のものです。

12月に入ったばかりとはいえ、仙台の空気は東京に比べるとだいぶ冷たく感じる。ビルの7階にあるとは思えない格調高く落ち着いた雰囲気のホールに足を踏み入れると、ステージの上空には、メンバー曰く"菱形のなにか"――十字架のような、結晶のようなオブジェ――が3つほど浮かんでいた。

櫻田泰啓によるピアノの音に導かれて純白のドレス姿の3人が登場すると、深く一礼し、そのまま「storia」へ。柔らかく、伸びやかで透明感にあふれた歌声があっという間にホール中に満ちていく。温かなオレンジ色のライトに包まれた「君の銀の庭」では、少女のような歌声がワルツのリズムに乗って軽やかに舞い踊った。

「Magia」では、歌と弦とピアノすべてがスタッカートを刻み、Hikaruが放つアタックの強いヴォーカルにオリジナルとはまた違う色味の"強い覚悟"を感じて、思わず息を飲む。聴き慣れた楽曲達がアコースティックアレンジに衣装替えをしたことで、今までとは違う表情を見せてくれるのが興味深い。

イントロで響いた繊細なヴァイオリンの音色に新たな命を感じたデビュー曲「oblivious」、十字架型に白く輝くオブジェを背負って歌った「seventh heaven」、反響板に映し出された空の映像が郷愁を誘った「カンタンカタン」、エモーショナルに躍動する弦とピアノ、3人のハーモニーがドラマティックな物語を描いた「Lacrimosa」と、楽曲世界への旅は続く。

どっぷりと音楽に浸りきった後は、Hikaruのご当地トークで心の休憩タイム。青葉城を満喫したこと、伊達政宗像の写真を撮ったことなど、楽しそうに報告するHikaruにみんなほっこりしていた。

終盤、Keikoが仙台への想いを言葉にする。「仙台の皆さんにはいつも深い温かさをもらっているように思います。最後の2曲は、自分の運命を自分で切り拓いていく、と意志を決めた、そんな強い曲をお届けします」。奏でられたのはピアノと3人の歌声のみの「believe」。ポロロンとピアノの音色が転がると、ゆったりとしたテンポに乗せて、まるでひとつの命を持っているかのようにハーモニーが脈打ち、力強く前へと進んでいく。本編ラストは、語りかけるように、励ますように紡がれる歌声が聴く者に勇気を届けてくれた

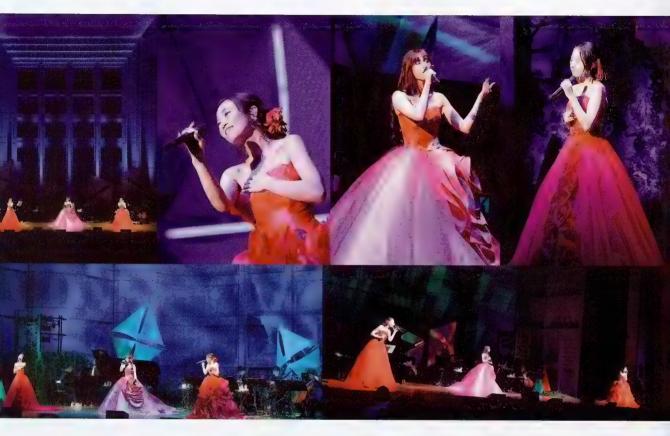
「ring your bell」だった。

この日、仙台公演ならではの歌の響きを強く感じたのは、アンコールラストの「やさしいうた」。全体を通して手に汗握るドラマチックなセットリストで届けられた今回のアコースティックツアーだったが、この日の「やさしいうた」は、温かく優しく穏やかでちょっと切なくて、ずっと心に縫い止めておきたいような、宝物のようなハーモニーを響かせていた。

KeikoがHikaruを呼び寄せて手を繋ぎ、WakanaとKeikoが目を見合わせながら腕を組む。3人が歌い繋いでいく最後のフレーズを受けとめながら、心が温かくなると同時に少し切なさも感じる。次に会う時まで、このハーモニーを忘れないでいよう。そう思った仙台での一夜だった。

"Kalafina with Strings" Christmas Premium LIVE 2017
2017.12.23 東京 Bunkamuraオーチャードホール Live Report

"9+ONE"を掲げ、ひた走ってきたKalafinaの2017年最後のハーモニーが美しく、清らかに響いた聖なる夜。

Text → 大西智之　Photo → キセキミチコ (KISEKI inc.)

11月からスタートさせたアコースティックツアーを経て、12月19日からは同じくストリングスのカルテット+ピアノ+3声という構成で『"Kalafina with Strings" Christmas Premium LIVE 2017』と銘打ったクリスマスライヴへと移った。2017年12月23日、東京・Bunkamuraオーチャードホール。今夜はクリスマス公演最終日であり、Kalafinaの2017年最後のライヴでもある。

開演予定時間の17時、まず楽器隊が定位置につき、一呼吸置いてクリスマス公演用の華やかなドレス姿のWakana、Keiko、Hikaruが一歩一歩エレガントに踏み出し登場する。

ピアノの音色がそっと響く。繊細に透き通った3声が重なり紡ぐ、オープニングは「dolce」だ。ストリングスも絡み、そのアンサンブルはゆったりとしたテンポで静謐な空気をホールに満たす。そして「we wish a merry Christmas」へ。グリーンと赤の照明がステージを染める中、Wakanaの澄んだ歌声、Hikaruの芯のある歌声、Keikoの包み込む低音のハーモニーが、クリスマスの神聖で温かな世界を深めていった。

「今日はクリスマスのカヴァーから、いろんな情景をみなさまに想い浮かべてもらえるような曲をご用意してまいりました」

KeikoのMCから導かれた「sapphire」。ソフトなタッチのピアノの伴奏とWakana、Keikoの2声が静かにたゆたう。弓弾きの弦の深い音色とHikaruの歌声がしっとりと響く。その音楽が連れてくるのは、哀しみの中にある愛おしさと僅かな光だ。「ワン、ツー」、櫻田泰啓のカウントが響き、入った「sandpiper」はズッシリと重い。まるで冬の曇天のような情景が心に広がる。それは決して幸せなものではないけれど、その空の下でも未来へ踏み出す力が3人の歌にある。

「アコースティックライヴは6年目。2012年にスタートしたんですけど当時はシンプルな編成でのライヴに緊張しました。それに曲がガラリと変わることに驚きました」

Wakanaが軌跡を振り返る。そして披露された「oblivious」。デビュー曲であり、アコースティック用にリアレンジされて今年のツアーから披露されているナンバーだ。Wakanaのロングトーンがふっと消える、その呼吸に添ってピアノが鳴る。Keiko、Hikaruのハーモニーとストリングス、ステージにいるミュージシャンが、歌で声で会話をし、有機的に今夜だけの音楽を織る。神経を研ぎ澄ました至高の緊張感と音を合わせる喜びが音楽に宿っていて、心地いい。それは温もりという快さだ。

人の心の温度が伝えてくる温かさを一層ほっこりと膨らませたのは「In Dulci Jubilo」からのカヴァー曲群だった。「deck the halls」ではストリングス隊のピチカートによる弾んだ音と華やかな歌が、幸福感をまとった粒となって振り注いでくる。続く「Jingle Bells」では、十分に温まった客席からクラップが起こり、そのリズムがアンサンブルの一部となった。

温かさの循環はステージにも伝わっている。

「みなさんと笑顔で顔を見合わせられたと自負しております」

常々から"ライヴではお客さん一人ひとりの

01. dolce
02. we wish a merry Christmas
03. sapphire
04. sandpiper
05. Magia
06. blaze
07. oblivious
08. seventh heaven
09. カンタンカタン
10. Lacrimosa
11. In Dulci Jubilo
12. deck the halls
13. Jingle Bells
14. 花束
15. 満天
16. 百火撩乱
17. ひかりふる
18. 光の旋律
19. into the world
20. Winter Wonderland

〈Encore〉
21. snow falling
22. have yourself a merry little Christmas

目を見て、音楽で会話をしていきたい"と言ってきたHikaruが、にこやかに話し掛ける。そして彼女はこう続けた。

「次にお届けするのは、自分の芯の部分はどこにあるのか、曲の中で自分が一番歌いたい部分はどこなんだろうとか、そういうことを深く考えるキッカケをくれた曲です」

曲は「花束」。力強く、優しく。歌が押し寄せる。"どんなに水を注いでも、立ち枯れていく想いはある。それを次にくる春の涙に手向けよう"。輪廻にも似た終わりと始まりの繋がり、今のすべては輝く未来のためにあるという想いに飲み込まれる。続いた「満天」、ドラマチックにダイナミックに歌がうねる。「百火撩乱」では、Wakanaがロングトーンを切るその余韻を残さない切り方や、アタックをつけたHikaruの歌に宿る意志、Keikoの体の奥底から湧いてくるようなエネルギーに息を飲む。重なる音数は少ないが、声とピアノと弦という"生楽器"の鳴りは感情とダイレクトに繋がっていて、強く心を揺さぶる。この編成の新たな一面、可能性を突きつけてくる。

ざわめく気持ちを静め、昇華するように「ひかりふる」の濁りない歌が響く。その歌は降り注ぐ慈愛に満ちた柔らかな光のよう。続いた「光の旋律」の跳ねた歌声は、痛みや哀しみも踏みしめながら歯を食いしばり、祈り、楽しんだ先で搾り出した希望の光に思えて、彼女たちの軌跡や自分の人生と重なって響く。そして「into the world」。伸びやかで瑞々しい歌声を聴きながら、今彼女たちが見渡すのは、誰も歩いていない真っ新な世界なんだと思った。3人の視線の先には目指すべき"小さな光"がハッキリと見えている。

アンコール。「have yourself a merry little Christmas」を歌い終えたWakana、Keiko、Hikaruが深く礼をする。そして、「2017年はお客さんと繋がりたくて、たくさんのところで音楽を届けられた1年でした」とKeikoが言う。

「メリークリスマス」

観客席を見渡す3人の目に映るファンの幸福に満ちた笑顔は、きっと彼女たちの中で未来を灯す光になるのだろう。

behind the scene shot

楽屋の扉がクリスマス仕様のリース付き

全員集合しての記念写真。華やか★

背景のパイプオルガンがポイントです

本番が終わったあと、客席でポーズ!

素敵なクリスマスになりました

Kalafina

Kalafina 10th Anniversary Film ～夢が紡ぐ輝きのハーモニー～

昨年、映画のお話を初めて聞いたとき、私自身素直に、"Kalafina"を客観的に見れるのは
「面白そう!」と思いました。もちろん始めはカメラへの戸惑いや緊張もありましたが、
気付いてみれば、10周年の武道館ライヴまでの半年間、
ほぼ全ての現場を撮影してもらったと思います。
試写では3人で笑いながら、時には懐かしみながら、たった半年の記録ですが、
まるで10年分の想い出を思い出すかのように鑑賞しました。
自分たちでも忘れていたことや気付かなかったこと、私の知らない2人の顔もあって、
鑑賞後はなんだか余韻に浸りたいような気分に…。私たちにとってかけがえのない、
Kalafinaの時間の記録でもある大切な映画になりました。
そしてそんな私たちをずっと支えてくださった、皆さんの映画でもあります。
是非、劇場でご覧ください!

世界遺産公演から、10th Anniversary LIVEまでの約半年、
カメラの存在を忘れて音楽作業に没頭する日々を過ごさせて頂きました。
初めての試写…観終わって出てきた言葉は「ありがとうございます」でした。
自分達だけじゃなく、Kalafinaの音楽に携わってくださるたくさんの方の人生の一部を
垣間見て頂ける映画になっていると思います。
決して短くない10年、積み重ねてきた時間、その歩みは勿論、
メンバーの背景を知り、個人的にも興味深い内容で、あっという間です!!
武道館公演に限らず、これまでのライブ活動の中でやり続けてきた、
個人リハ→3人リハ→全体リハに繋がっていく、一つ一つを丁寧にお届けできるのは、
嬉しくもあり、照れくさくもありますが…笑　皆さんに楽しんで頂けたら嬉しいです。
是非、劇場にて、迫力ある音響の中で観ていただきたいです!

10周年という特別な時だから、映像として、
映画館の大きなスクリーンから、皆さんと歩んで作ってきたものを
観ていただけることになりました!
顔のアップが、かなりアップになってしまう…などは恥ずかしいですが(笑)
でも、はぁ…裏側…とか、ここのシーンはきっと皆さんが笑顔になるんだろうなぁとか、
レアショット!とか、支えてくださった皆さんに是非見てほしいものが在ります。
公開は3月30日から2週間限定ですが、是非、劇場でご覧ください(*´ω`*)

Special Message from
河東監督
《映画撮影で感じたこと》

半年近くも密着していると、3人の個性に魅了されます。Wakanaさんの天性の人懐っこさは、
あらゆるシーンで場を和ませる役割を果たしています。しかも、キチンと相手のことも思いやれる
包容力も持っているので驚きです。Hikaruさんはいつも思索的な雰囲気を漂わせています。
物事や人物の表面を見るのではなく、その奥を見ようとしているかの様です（でも、本当のところは判りません）。
Keikoさんは、ライヴの準備段階から本番まで、全エネルギーを音楽に注ぎ込んでいます。
お馴染みのジャポニカ学習帳には、私も盗み読みをしましたが（内緒ですヨ）、
実に細かく問題点を書きこんであります。恐らく寝る時間はないと思われます。
「自分たちの考えていることを実現するためには、
他の誰よりもライヴ内容のことを考えていなければいけない」という強い想いが感じられます。
こうした三者三様の個性が、Kalafinaというひとつの個性を形作っています。音楽上の割り振り（ハーモニー）と
3人の個性が、見事に融合、リンクしているのが、彼女たちの大きな魅力となっている様に感じました。
2018.2.17　河東 茂

2018.3.30 Fri ------ 4.12 Thu
2週間限定公開

監督：河東 茂

◆

製作：「Kalafina 10th Anniversary Film」製作委員会　配給：東宝映像事業部

◆

当日料金：2,200円（税込）均一　全国共通特別前売券（ムビチケ）：2,000円（税込）

※各種割引券・招待券使用不可 ※サービスデー等、対象外となります。※映画館により特別シート等追加料金がかかる場合がございます。

北海道・東北
北海道 札幌シネマフロンティア
011-209-5400
岩手 盛岡中央映画劇場
019-624-2879
宮城 MOVIX仙台
050-6865-6205
関東・甲信越
東京 TOHOシネマズ 日比谷
（2018年3月29日特別先行上映）
神奈川 TOHOシネマズ 川崎
050-6868-5025
埼玉 TOHOシネマズ ららぽーと富士見
050-6868-5062
群馬 MOVIX伊勢崎
050-6865-3212
新潟 T・ジョイ新潟万代
025-242-1840
静岡 静岡東宝会館
054-252-3887
中部・北陸
愛知 TOHOシネマズ 名古屋ベイシティ
050-6868-5005
富山 TOHOシネマズ ファボーレ富山
050-6868-5009
関西
大阪 TOHOシネマズ 梅田
050-6868-5022
TOHOシネマズ なんば
050-6868-5043
兵庫 TOHOシネマズ 西宮OS
050-6868-5051
中国・四国
岡山 TOHOシネマズ 岡南
050-6868-5042
徳島 ufotable CINEMA
088-678-9113
愛媛 TOHOシネマズ 新居浜
050-6868-5019
九州・沖縄
福岡 T・ジョイ博多
092-413-5333

●全国共通特別前売券（ムビチケ）は、下記の店頭にて販売中！

【アニメイト取扱店】
池袋本店、高崎店、仙台店、千葉店、札幌店、川越店、渋谷店、名古屋店、静岡店、新潟店、
秋葉原店、盛岡店、天王寺店、三宮店、京都店、福岡天神店、松山店、岡山店、小倉店、
大阪日本橋店、横浜店、川崎店、梅田店、新宿店
アニメイトオンラインショップ
詳しくはこちら↓
https://www.animate-onlineshop.jp/pn/pd/1507718/

【ゲーマーズ取扱店】
AKIHABARAゲーマーズ本店、ゲーマーズなんば店

【取扱映画館】
ufotable CINEMA（徳島県）

【ファンクラブ限定】
ファンクラブ限定の、【グッズ（チケットクリアファイル）付き
オリジナルデザインムビチケ（AとBの2種類）は、
2018年3月29日（木）受付分まで！
https://spacecraft-shop.jp/kalafina
詳細は映画公式ホームページ（kalafina10th-film.jp）をご覧下さい。

アニメイト／ゲーマーズ／ufotable CINEMA
【ムビチケカード】

ファンクラブ会員限定チケット
クリアファイル付
【ムビチケカードA】

ファンクラブ会員限定チケット
クリアファイル付
【ムビチケカードB】

第3回

Wakanaと行く! サメ捕獲の旅!

サメを愛するWakana。
今回は、宮島で行った水族館の
模様と、サメが出る映画を観よう!
ということで映画鑑賞の
2本立てでお届けします!

宮島水族館へ行ってきました!

Wakana宮島水族館へ行く

「Kalafina Acoustic Tour 2017 ~"+ONE" with Strings~」の山口公演と広島公演の間の移動日、急遽、広島県の宮島水族館へ行こう!ということになり、ファンクラブで同行してきました!

◆今回はサメが出ている映画を観よう! ということですね! 今回観た映画は『ロスト・バケーション』、どうしてこの映画を選んだんですか?

「とにかく主演のブレイク・ライブリーが大好きなんです!『ゴシップガール』に出ていた女優さんです。ブレイクのボディがすばらしくて……本当にかわいいんです」

◆サメが怖かったですね……。

「映画のサメってすごく悪く描かれちゃうんですよね……。相当嫌われてるのかなぁ。今回この映画を観るのは4回目なんですけど、今日観ていてまた新たな発見がありました。あ、これが原因で人を襲っていたのかな、と。ただただ悪者っていうわけではないと思うんです!」

◆『ロスト・バケーション』に出てくるサメは本物なんですか?

「この映画はCGで本物のサメの動きを取り入れていて、リアルだけど本物のサメではないですね。皆さんに観て欲しいので多くは語れないですけど、本当にブレイクがかっこいい! サメの動きもすごい! ぜひ観て欲しいです!」

◆その他にもいくつかサメの出てくる映画を紹介してもらいました。『ディープ・ブルー』のおすすめポイントは?

「この映画のサメは完全にCGなんで、めちゃめちゃ暴れます! 人間が作った最強のサメです。すごく怖い(笑)」

◆『イントゥ・ザ・ブルー』はどうですか?

「この映画もジェシカ・アルバが美しいです! 海もキレイ! 出てくるサメが本物なんですよ。フォルムがとても美しいです。サメが襲い掛かる人間が悪者なので結構スカッとします(笑)」

◆『ジュラシック・ワールド』は恐竜の映画ですよね? サメが出てくるんですか?

「モササウルスというすごく大きな恐竜が餌にホオジロザメを食べます。一瞬出てきます(笑)。おすすめです」

◆一瞬なんですね(笑)。最後に『オープン・ウォーター』ですが……。

「これはですね……本物のサメが出てくるのはすごくいいんですけど。私はトラウマです……もう観ないです……」

◆……。それでも観たい方は覚悟を決めて観ていただきましょう……。では、サメ映画の総評を。

「私は怖い映画が好きなわけではないんです。ホラーとか一切ダメで。やっぱりサメが出ているから観る! そこはもうなんか意地もあります(笑)。サメのことをたくさん知ろう! と。ただ、むやみにサメに人間を襲わせる映画は好きじゃないです。ストーリーは大事ですね。好きな俳優さんが出ていたら楽しい映画も怖い映画も観るじゃないですか! そんな感じです!」

◆納得しました!(笑) では、次号もお楽しみに!

Wakanaが紹介! サメが出てくる映画オススメ5選

『ロスト・バケーション』
監督:ジャウマ・コレット=セラ
主演:ブレイク・ライブリー

『ディープ・ブルー』
監督:レニー・ハーリン
出演:トーマス・ジェーン サフロン・バロウズ

『イントゥ・ザ・ブルー』
監督:ジョン・ストックウェル
出演:ポールウォーカー ジェシカ・アルバ

『ジュラシック・ワールド』
監督:コリン・トレヴォロウ
主演:クリス・プラット

『オープン・ウォーター』
監督:クリス・ケンティス
出演:ブランチャード・ライアン ダニエル・トラヴィス

Keikoの美活! 食事編 Vol.3

Photo > 大川晋児 (Keiko)

Keikoが美容や健康のために取り組んでいることを紹介するこのコーナー。今回の美活は、今まで外からのアプローチ（運動）だったので、中からのアプローチを!……ということでKeikoのこだわりの食事をご覧ください!　すべてKeikoの手作り料理です!!

「美活は内側から!」

今が旬の久比三角島レモンをお取り寄せ!

久比三角島レモンで作ったレモンゼリー。体に良さそうなおやつです!

久比三角島レモン

普段から旬の食材を食べるようにしているんですが、今は久比三角島レモンが旬なので、体内では生成出来ないビタミンCや抗酸化作用があるといった理由から、皮まで食べられるオーガニックレモンを使ってレモンゼリーやレモンケーキを作っています!

ケーキまで焼いちゃうKeiko!　美味しそう～!!

シジミのお味噌汁

常備食・コンニャク大根人参の煮物

常備食の煮物には、すりゴマを一振りして^ ^

Keikoの和食には欠かせないお出汁です!

煮物とお味噌汁

あとは、一年中冷え性なので、体を温めるスープ類は必須で作ります。豚汁ならぬ、豚具だったり、お正月はお雑煮、具沢山のお味噌汁は旬野菜をたっぷりと入れます。

お肉料理

チカラ飯は「肉」!　お肉料理は欠かせません!　大抵、豚肉料理が多いです。今回は、よく作る「生姜焼き」を!

豚肉には、ビタミンB1が豊富に含まれていて、疲労回復だったり、糖質を分解する働きをしてくれるので、肉体疲労を感じる時は豚肉をよく食べます!焼肉に行ってもサムギョプサルを頼むぐらい好きです^ ^

豚の生姜焼き

バレンタイン企画

バレンタイン時期ということで。
チカラ飯の「烏骨鶏の卵」を使ってチョコケーキ作りました♥

完全オーガニックガトーショコラ

Keiko手作りガトーショコラをWakanaとHikaruにプレゼント♪

Keikoおすすめレシピ1 食欲が止まらない! 豚のスペアリブ肉じゃが

＊材料＊
骨付き豚のスペアリブ…400グラム
じゃがいも…1個
かつお節…10グラム〜15グラム
かいわれ…お好み
ごま油…適量
＊豚のスペアリブの煮汁の材料＊
お酢…150ml
お水200ml〜250ml（私は少し多めにして薄味でゆっくり煮込みたいので250mlですが、男性は200mlでいいと思います）
お砂糖…大さじ1（私は蜂蜜で甘さを出すので、白砂糖は使わず、ココナッツシュガーを大さじ一杯にして、ヘルシーにしています）
お醤油…大さじ1
蜂蜜…20グラム

❶深めのフライパンにごま油を入れ、豚のスペアリブを、こんがり焼き色がつくまで火を通します。
❷一度フライパンから豚のスペアリブを取り出す。
❸フライパンに残った豚のスペアリブの油で、じゃがいもを焼いて（揚げるイメージ）いきます。表面に焼き色がついたら、一度フライパンから出し、アルミホイルで蒸し焼きにしておきます。
❹豚のスペアリブをフライパンに戻して、煮汁の材料を入れていきます（お酢→お水→お砂糖→お醤油→はちみつの順番で）。15分間コトコト煮込みます。水分が豚のスペアリブに染み込んで少なくなってきたら、先程のじゃがいもをフライパンに戻します。
❺別のフライパンでかつお節を炒る。
❻かつお節がカリッとしたら、フライパンに入れて、豚のスペアリブとじゃがいもにサクッと絡める。
❼お好みでかいわれを乗せて完成です!

育ち盛りのお子様や、お仕事で疲労回復したい男性、たまには骨つき肉にかぶり付きたい可愛い女性、様々な方にオススメな力強いお肉料理です(^^)

Point!
ここで、余熱を使い、じゃがいもをアルミホイルで蓋をして蒸し焼きにしておくとホクホクになります。じゃがいもは皮付きがオススメです!

Point!
ひと手間ですが、かつお節をパラパラとなるくらいに炒るのが美味しく味が絡むpointです^ ^

少し珍しい「豚のスペアリブを使った肉じゃが」を紹介します^ ^ 鰹節をフライパンで炒ってから最後にスペアリブとジャガイモと混ぜ合わせると、とても香ばしくて食欲が増します! 新じゃがの時期だったのでこのメニューにしてみました。

Keikoおすすめレシピ2 保存に最適! レモンの蜂蜜漬けのレシピをご紹介!

＊材料＊
有機レモン…4個
私は久比三角島（くびみかどじま）を取り寄せています。
皮の栄養素を摂取したいので、出来れば有機レモンがオススメです。
蜂蜜…入れる瓶に合わせて。

❶瓶を煮沸洗浄します。自然乾燥が終わったら、瓶が温かいうちに作っていきます。
❷煮沸洗浄した瓶に輪切りにしたレモンを入れ、蜂蜜と交互に入れていきます。
レモンが、ひたひたになる量の蜂蜜を入れて完成です(^^)
生の蜂蜜は……
☆抗酸化物質 ☆酵素
を含むので長持ちするんです! ただ、熱処理をすると栄養素が破壊されてしまうので、出来るだけ生蜂蜜で頂きましょう! 睡眠にもいい影響があるそうですので、寝る前にお湯割りの蜂蜜レモンなんかもいいですね(^^) もちろん、殺菌効果があるので、喉にもいいです。
レモンには言わずもがなビタミンCが豊富に含まれていますが、その他にも、肝臓の解毒を助けてくれる抗酸化物質を含んでいますので、蜂蜜と組み合わせると最強です!!
蜂蜜レモンは、スポーツ中に食べるのがおなじみですが、飲み物やおやつ、お料理、様々な食事のお助け食材になりますので、ぜひ久比三角島（くびみかどじま）レモンをGETして健康になって下さい^ ^

Point!
輪切りにしたレモン→蜂蜜をかける→レモン→蜂蜜と、交互に丁寧に重ねていくと、蜂蜜が染み込んで美味しくなります! 煮沸洗浄をしっかりすると、冷蔵庫で約半年ぐらい日持ちしますので、便利です!

おしながき

久比三角島レモン
☆レモンゼリー
☆レモンケーキ
☆レモンの蜂蜜漬け

煮物とお味噌汁
☆シジミのお味噌汁
☆常備食・コンニャク大根人参の煮物

お肉料理
☆豚の生姜焼き
☆豚のスペアリブ肉じゃが

バレンタイン企画
☆完全オーガニックガトーショコラ

ブックコンシェルジュHikaruの部屋へようこそ

今回は"音楽"をテーマにしたオススメ作品が登場！ コンシェルジュHikaru曰く、「今回は選ぶのが難しかった～！」という、渾身のセレクト5作品です。

Photo ⇒ 大川晋児

"音楽"といえばこの作品！

NANA／矢沢あい
カノジョは嘘を愛しすぎてる／青木琴美
覆面系ノイズ／福山リョウコ
僕のジョバンニ／穂積
アイドリッシュセブン／原作:バンダイナムコオンライン・都志見文太　キャラクター原案:種村有菜

❶「NANA」　著:矢沢あい

一大旋風を巻き起こした実写映画化第一弾が公開されたのがHikaruが中学生くらいの時。原作は小学生の時から夢中で読んでいました。「NANA」は、ちょっとミーハーで天真爛漫なハチこと小松奈々と、ロックバンド・ブラストことBLACK STONESのヴォーカリストであり、男勝りでクールな大崎ナナという2人のNANAが主役のお話です。とにかく、ハチがびっくりするくらい真っ直ぐでちょっとおバカで、実際に友達だったら困るタイプだと思うんですけど(笑)、憎めないんですよね、なにに対しても一生懸命で。音楽に関しては、ナナが所属するブラスト、ナナの恋人でもあるレンがギターを務めるトラネスことTRAPNESTという2つのロックバンドがメインで登場するんですが、マンガだから読んでいても音楽は鳴ってこないじゃないですか？　でも、「カッコイイ曲なんだろうな」と迷わず思わせてくれる画力(えぢから)がすごい！　私自身は当時からシンガー志望だったので、「バンドで歌ったらこんな感じなのかな？」って想像しながら読んでました(笑)。メンバー同士なのに色恋でゴタゴタあったら大変なんだな、とマンガだけど本気で心配してましたね。どのキャラクターも必死で生きていて、みんな真っ直ぐゆえに想いのすれ違いがあって傷つけ合ったりしていて。でもみんな、最後の最後は逃げないんですよね。キャラによって心が強かったり弱かったりするんですけど、最終的に逆境と向き合って乗り越えようとしている。その姿が印象的です。あと、ダメなことをやらかしたら叱ってくれる友人や仲間の存在が必ず描かれていて、そこも素敵だなって思いますね。

❷「カノジョは嘘を愛しすぎてる」　著:青木琴美

通称「カノ嘘」も2013年に実写映画化して一般層にもヒットした作品ですが、『Cheese!』連載当初から大好きで、完結まで追いかけていました。人気バンド・クリプレことCRUDE PLAYの大ファンの女子高生・リコが"心也"にナンパされて付き合い始めるところからお話が始まります。実は"心也"の正体は……という恋愛×バンドストーリー。音楽業界の光と影を織り交ぜて描かれていて、たとえば、リコが、元々組んでいたバンドのギターの男の子2人と一緒にはメジャー・デビューはさせない、と大人達から言われたりとか。ビジネスをしている大人だと割り切らなきゃいけないことも、高校生のリコ達には納得できない。もっと大切なことがあるでしょ、って。その他にも、関係者とのしがらみや自身の創作活動において、いろんな悩みや葛藤を抱えているキャラがいたり……。原作はすでに完結しているので、恋愛模様はもちろん、それぞれの音楽活動の行方がどうなるのか、ぜひ読んでみてほしいです！

❸「覆面系ノイズ」　著:福山リョウコ

アニメ化に続き、昨年実写映画化されて話題になったのでタイトルを聞いたことある人も多いかもしれないですね。原作は現在も『花とゆめ』で連載中なので、ぜひ原作も読んでほしい作品です。主人公のニノが"アリス"としてギター&ヴォーカルを、ニノのことが好きなユズが"チェシャ"としてギターと作曲を担うイノハリことin NO hurry to shout;、ニノの初恋の相手・モモがベースと作曲を務める黒猫ことSILENT BLACK KITTYという2バンドと、そのメンバー達がメインとなってストーリーが進んでいきますが、Hikaruの中で先に挙げた2作と異なる部分は、バンドものではなくて〈歌もの〉のお話として捉えているということ。ヒロインのニノは、"感情で歌う"というキャラクターとして

描かれているので、彼女の気持ちにシンクロできるシーンがたくさん出てくるんです。いろんな音楽マンガの中でも自分との距離が近い作品のひとつで、感情移入の度合いが激しくて……。けっこう読む時に気合いが必要なんです(笑)。

❹僕のジョバンニ　著：穂積

天賦の才を持つ郁未と、自身も非凡な才を持ちながらも郁未の才能に焦りを感じる鉄雄。友情とチェロという強い絆で結ばれた少年2人の生き様を描いた作品です。絵柄が大人っぽいことと巧みなストーリーテリングが相まって、醸し出すリアリティがすごい! 自分が頑張ってもできないことをサラリとやってしまう友人の才能を知ってしまった時の焦燥感や虚しさ、悔しさ、羨ましさ。読んでいて共感してしまうところがあって、胸を抉られます。物語の中で、鉄雄は郁未が持つチェロの才能に打ちのめされそうになるけど、そこで諦めずに海外へ音楽留学の道を選ぶんです。その鉄雄の生き方に励まされました。そこで折れない強さ、大事ですよね! 単行本は2巻が出たところなので、ここからどんどんストーリーは動いていくと思います。鉄雄と郁未の行く末をずっと見守っていきたい!

❺アイドリッシュセブン　原作：バンダイナムコオンライン・都志見文太　キャラクター原案：種村有菜

音楽モノってあまり気軽に手を出せないんです。マンガは創作なわけだから非現実なんだけど、自分にとってはどこかしらリアルに感じてしまうから、読むのに決意が必要なジャンルで。登場人物の気持ち、葛藤とか嫉妬とか喜びとか全部が刺さってくるから……絶対泣いちゃうし(笑)。だから今回は選ぶのがすごく難しかった! で、最後は明るく締めたい! というところで、アイナナこと「アイドリッシュセブン」をオススメしちゃいます! 今クールでTVアニメが放映中ですね。元々は、男性アイドルグループが登場する音楽ゲーム(リズムゲーム)と言われるアプリゲームなんですけど、アイナナはストーリーと楽曲のリンクが強くて、そこがポイント高い! まさかリズムゲームのストーリーで涙を流すとは思ってなかったんですけど、本当に良いエピソードだらけで。たくさんのキャラクターが登場しますが、ひとりひとりにドラマがあって見逃せない! ゲームだし、アニメだし、と軽い気持ちで読んでいくと、音楽業界のリアルにギリギリまで踏み込んでいるようなシナリオにビックリさせられます(笑)。架空のグループなのに、だんだん現実で活動しているような気持ちになってきちゃって気がついたら真剣に応援しちゃうっていう(笑)。夢みたいな理想だけを詰め込んで創られた作品世界じゃないからこそ、奥が深くておもしろいんだと思う。コミックスあり、アニメあり、ゲームあり。どこからでも楽しめるので、ぜひ体験みてほしいです!

こぼれネタ

雪女&雪男が登場する作品

怖いけどかわいくて放っておけない♥

地獄先生ぬ～べ～／原作:真倉翔 作画:岡野剛
亜人(デミ)ちゃんは語りたい／ペトス
妖狐×僕SS／藤原ここあ
ロッカメルト～フィアンセは雪男～／藤間麗

春近し……とはいえ、まだまだ寒い今日この頃。今回のこぼれネタは、このコーナーならではのニッチな切り口でお届けしますよ~。登場人物に、"雪女""雪男"が登場するマンガを4作品をご紹介!

◆地獄先生ぬ~べ~／原作:真倉翔　作画:岡野剛

人生で初めて"雪女"というキャラクターを認識したのが、"ゆきめ"ちゃん。鬼の手を持つ童守小学校5年3組の担任教師・鵺野鳴介の周りで巻き起こる妖怪事件を描いたお話で、Hikaru的には怖い話は苦手なんですけど、とにかくゆきめちゃんがかわいくて! しかも、あるエピソードで一度死ぬ、というか溶けてなくなっちゃうんです。あの時の衝撃はすごかった……。推しキャラが消失する悲しみをそこで初めて知りました(涙)。

◆亜人(デミ)ちゃんは語りたい／ペトス

高校教師・高橋鉄男と普通の人間ではない〈亜人〉の生徒との交流を描いたお話です。ヴァンパイアやデュラハン、サキュバスといろんなキャラが出てくるんですが、その中に日下部雪ちゃんという雪女の少女がいます。涙が氷だったり、冷や汗が凍って冷気になったりするんですけど、先生とその体質を検証するエピソードがかわいいんです!

◆妖狐×僕SS／藤原ここあ

通称「いぬぼく」。作品そのものも大好きなのですが、雪女の先祖返り・雪小路野ばら様が、強くて美しいけど、自分の容姿には無頓着のずぼら、その上、女体フェチ全開の変態という。好きすぎる! 雪女って、孤高で孤独で美しくて恐ろしい、というイメージをあえて崩してくるキャラ造形がポイントで。「かわいらしさ」とか「親しみやすさ」とかを入れることで、すごく愛着が湧くんですよね。メニアーック!!(←野ばらのログセ)

◆ロッカメルト～フィアンセは雪男～／藤間麗

体育会系のヒロイン一夏の元に「先祖同士の約束だから」と雪男のイケメン兄弟・凍牙(とうご)と雪也(ゆきなり)がフィアンセとしてやってくるところから始まるファンタジック・ラブコメディ。雪女の力を持ちつつも、キャラクターとしては、ヒロインの相手役として雪"男"になっているのが新鮮。兄のほうは雪女の力は弱めで人に迷惑かけない程度、弟のほうは力が強くて感情が爆発すると周囲が大吹雪になる、という(笑)。さて、ヒロインはどっちと結ばれる!?みたいなドキドキを味わってほしい!

本日のおすすめリスト

テーマ:"音楽"といえばこの作品!	
NANA	矢沢あい
カノジョは嘘を愛しすぎてる	青木琴美
覆面系ノイズ	福山リョウコ
僕のジョバンニ	穂積
アイドリッシュセブン	原作:バンダイナムコオンライン・都志見文太 キャラクター原案:種村有菜
テーマ:雪女&雪男が登場する作品	
地獄先生ぬ～べ～	原作:真倉翔 作画:岡野剛
亜人ちゃんは語りたい	ペトス
妖狐×僕SS	藤原ここあ
ロッカメルト～フィアンセは雪男～	藤間麗

Information Harmony

Movie

初のドキュメンタリー映画
「Kalafina 10th Anniversary Film ～夢が紡ぐ輝きのハーモニー～」
全国18劇場にて2週間限定公開！ 2018年3月30日(金)～4月12日(木)

北海道・東北
北海道 札幌シネマフロンティア 011-209-5400
岩手 盛岡中央映画劇場 019-624-2879
宮城 MOVIX仙台 050-6865-6205
関東・甲信越
東京 TOHOシネマズ 日比谷(2018年3月29日特別先行上映)
神奈川 TOHOシネマズ 川崎 050-6868-5025
埼玉 TOHOシネマズ ららぽーと富士見 050-6868-5062
群馬 MOVIX伊勢崎 050-6865-3212
新潟 T・ジョイ新潟万代 025-242-1840
静岡 静岡東宝会館 054-252-3887
中部・北陸
愛知 TOHOシネマズ 名古屋ベイシティ 050-6868-5005
富山 TOHOシネマズ ファボーレ富山 050-6868-5009
関西
大阪 TOHOシネマズ 梅田 050-6868-5022
TOHOシネマズ なんば 050-6868-5043
兵庫 TOHOシネマズ 西宮OS 050-6868-5051
中国・四国
岡山 TOHOシネマズ 岡南 050-6868-5042
徳島 ufotable CINEMA 088-678-9113
愛媛 TOHOシネマズ 新居浜 050-6868-5019
九州・沖縄
福岡 T・ジョイ博多 092-413-5333

「Kalafina 10th Anniversary Film ～夢が紡ぐ輝きのハーモニー～」
初日舞台挨拶
【日時】2018年 3月30日(金)
【場所・時間】TOHOシネマズ 日比谷:18:30の回(上映前舞台挨拶)

CD

Single「百火撩乱」発売中
Single「into the world / メルヒェン」発売中
Album 谷村新司 45th 記念アルバム「STANDARD～呼吸～」発売中
※特別ボーナス・トラック楽曲「アデリーヌ」にKalafinaがバッキング・ボーカルとして参加

Blu-ray&DVD

OVA「クビキリサイクル 青色サヴァンと戯言遣い」
エンディングテーマ「メルヒェン」
OVA 全8巻発売中

「Kalafina "9+ONE" at 東京国際フォーラム ホールA」発売中
「Kalafina Arena LIVE 2016 at 日本武道館」発売中
「Kalafina LIVE TOUR 2015～2016 "far on the water" Special FINAL at 東京国際フォーラム ホールA」発売中
「Kalafina LIVE THE BEST 2015 "Red Day" at日本武道館」発売中
「Kalafina LIVE THE BEST 2015 "Blue Day" at日本武道館」発売中

Radio

bayfm『Kalafina倶楽部』
毎週火曜日 24:00～24:27 ※O.A終了後ストリーミング放送あり
http://bayfm78.com/kalafina/index.htm
kalafina@bayfm.co.jp

より詳しい情報や新たな更新情報はサイトをご覧ください
▶Kalafina Official Web Site→http://www.kalafina.jp
▶Kalafina Official blog→http://lineblog.me/kalafina/
▶Kalafina Official Live Site→http://www.kalafinalive.com
▶Kalafina Staff Official twitter→https://twitter.com/kalafina_staff
▶Kalafina Official Fan Club「Harmony」→https://kalafina-fc-harmony.jp/
▶Kalafina Official Fan Club「Harmony」Staff Oficial twitter→https://twitter.com/Harmony_FanClub

◆更新手続き方法
継続用紙の発送はございません。
Harmonyサイトのマイページ、またはお手元に届く発送物封筒のラベルに会員期限が掲載されています。ご確認の上、会員期限が切れる前に継続手続きをして下さい。
メールアドレスをご登録されている会員様へは会員期限が近くなりましたら、メール配信にて更新手続きのご案内をさせていただきます。
〈PC／スマートフォンからの更新方法〉
お客様の更新期限の2ヶ月前から更新が可能です。(期限が2018年6月30日の場合、2018年5月1日から更新が可能です)
更新期間になりますと、Harmonyサイト内のマイページに『更新ボタン』が表示されます。
更新ボタンよりお支払のお手続きを行って下さい。
●クレジットカード決済の場合
お客様のクレジットカード番号など必要情報をご入力ください。
即時決済となります。
●コンビニ決済の場合
お支払いただくコンビニを選択してください。
お申込みが完了いたしましたら申込み完了メールが送信されますので、メールに記載の受付番号にて、お支払期限内にご選択いただいたコンビニにてお支払い下さい。
(お支払期限を過ぎますとお申込みは無効となりますので、再度マイページより更新お手続きを行って下さい)
メールが届かなかった・消去してしまった場合は、マイページTOPに受付番号・支払期限が表示されておりますので、そちらをご確認下さい。
〈PC・スマートフォンをご利用不可能な方の更新方法〉
郵便振替で更新手続きをして下さい。
※HarmonyはローソンのLoppiからはお手続きいただけません。
口座番号:00100-9-696779　加入者名:Harmony　振込金額:4,000円
通信欄:会員番号・お名前・「継続会費」、とご記入下さい。
ご依頼人:お名前・ご住所・お電話番号をご記入下さい。
※必ず郵便局の払込票を使ってお振込み下さい。
※ATMでキャッシュカードを使ってご入金されますと、必要事項が記入できませんのでご注意下さい。
※郵便振替でお手続きの場合は、更新手続き完了までに少々お時間をいただきます。

◆登録内容の変更
お引っ越し等でご住所などに変更がある場合は、下記の方法でお早めに登録内容の変更をして下さい。
会報の発送は郵便局からの郵送ではなく、クロネコヤマトメール便での発送となります。
郵便局に転送届を出していても転送はされませんのでご了承下さい。
〈PC・スマートフォンをご利用可能な方〉
Harmonyサイトのマイページよりご変更のお手続きをお願いいたします。
〈手順〉
Harmonyサイトにアクセス
⇒ログインボタンからログイン⇒マイページにアクセス⇒『登録個人情報』ボタンから『編集』へ進む
⇒メールアドレス・パスワード・姓・ご住所・お電話番号などを変更⇒『保存』を押すと変更が保存されます
※お名前や生年月日などマイページで変更できない会員情報の修正依頼は、サイト下部「よくあるご質問」内のお問い合わせフォームより、会員番号・お名前と修正希望の内容をご記入の上ご連絡ください。
〈PC・スマートフォンをご利用不可能な方〉
Harmonyまでおハガキで、会員番号・お名前と修正希望の内容をご連絡ください。
※おハガキで変更届けをいただく場合は、登録内容反映までに少々お時間をいただきます。

◆会員証再発行
同じ会員番号で再発行が可能です。
会員証の再発行は手数料として1,000円(税込)がかかります。
再発行には1ヶ月～2ヶ月程お時間をいただきます。
ファンクラブにご登録のご住所へ発送となります。
〈PC・スマートフォンをご利用可能な方〉
再発行のお申込みはHarmonyサイトのマイページから行っていただけます。
〈手順〉
Harmonyサイトにアクセス
⇒ログインボタンからログイン⇒マイページにアクセス⇒『会員証再発行』ボタンを押して、お支払い方法をお選びください
⇒クレジットカードの場合は即時決済・コンビニ支払いの場合はお申込み完了後に送信されるメールに受付番号が記載されておりますので、ご選択いただいたコンビニより支払い期限までにお支払下さい
〈PC・スマートフォンをご利用不可能な方〉
郵便振替で再発行のお手続きをして下さい。
口座番号:00100-9-696779　加入者名:Harmony　振込金額:1,000円
通信欄:会員番号・お名前・「会員証再発行」、とご記入下さい。
ご依頼人:お名前・ご住所・お電話番号をご記入下さい。
※必ず郵便局の払込票を使ってお振込み下さい。
※ATMでキャッシュカードを使ってご入金されますと、必要事項が記入できませんのでご注意下さい。

◆お問い合わせ先
●Harmonyオフィシャルサイト
https://kalafina-fc-harmony.jp/
●フォームでのお問い合わせ
https://kalafina-fc-harmony.jp/contact
Harmonyサイト下部「よくあるご質問」内⇒「お問い合わせフォーム」からお問い合わせいただけます。
●メールでのお問い合わせ
support@kalafina-harmony.zendesk.com
●電話でのお問い合わせ
03-3796-8720(平日11時～18時)
●郵送先
〒107-0062
東京都港区南青山3-1-31 NBF南青山ビル6階
スペースクラフト・エンタテインメント㈱
S.C.CLUB「Harmony」　宛
※ファンクラブ業務以外のお問い合わせはお受けできませんのでご了承下さい。

Kalafina
Harmony
Official Fan Club
Kalafina
Harmony
Magazine